日野町
認知症高齢者等
事前登録事業を
はじめました
NEW RELEASE

認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らせるまちに

認知症などが原因で外出したまま行方が分からなくなったことはありませんか

「日野町認知症高齢者等事前登録事業」は、認知症などにより行方不明になるおそれがある人の特徴などを事前に町と警察署に登録することで、登録情報を活用してできるだけ早く捜索活動を行い、早期発見・保護するものです。

なぜ「事前登録」なの？

行方不明になったことが分かってから捜索活動が行われるまでには、警察への届け出や捜索体制を整えるまで時間がかかります。捜索活動までの時間を短縮することで早期発見につながります。

誰でも登録できるの？

対象者は、町内在住者で認知症などが原因で行方不明になったことがある、または行方不明になるおそれのある人です。行方不明になったことがなくても、心配な人はご相談ください。

どのようなことを登録するの？

身長や体重などの身体的な特徴やよく行くところ、かかりつけ医、緊急連絡先などのほか、写真を登録します。登録情報は、町（地域包括支援センター）と黒坂警察署で保管し、行方不明発生時に登録情報を活用します。

申し込み方法は？

町地域包括支援センターにご相談ください。なお、申込みには印かん、写真（顔写真または全身写真）が必要です。

【問合せ】　日野町地域包括支援センター（電話 72-0339）

行方不明者の捜索にかかわる情報や防災情報などをメールで入手する方法として、鳥取県が提供している「あんしんトリピーメール」をご存知ですか？ぜひ、登録をお願いします。

【登録方法】

①登録用アドレスに空メールを送信する。

e-tottori-safe@xpressmail.jp

② QR コードで簡単登録
QR コード読み取り機能がある携帯電話を持っている人は、右記 QR コードからメールが作成できます。

日野病院
病院長コラム

第14回

将来の医療はどうなるか

～ 新 春 予 測 ～

日野病院 病院長　孝田　雅彦

日野病院の孝田雅彦病院長が、さまざまな病気や健康について、その予防法や健康に過ごすための豆知識などお役立ち情報をお届けします。

医療を大きく変える可能性を秘めたAI

新年明けましておめでとうございます。皆さん、良いお正月を迎えられたでしょうか。

新年早々病気の話をするのも無粋なので、今回は将来の医療はどうなっていくのか、予測してみたいと思います。

今後の医療はAI（人工知能）、ロボット技術、インターネットによって大きく変化すると思われます。AIはディープラーニング（深層学習）によって、人以上に学習することが可能となりました。

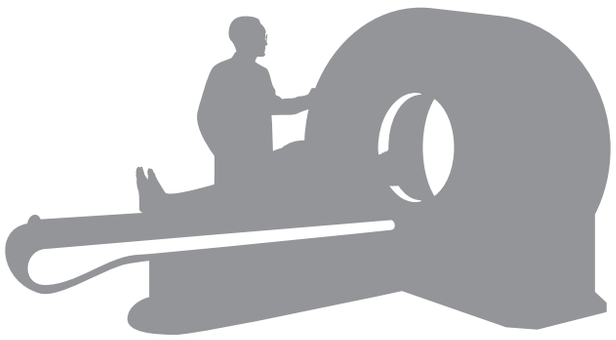
人知を超えたAIも存在。将来、自動診断が実現するかも

今、AIは自動車の自動運転や、将棋やチェスでコンピューターが人よりも強くなり注目を浴びています。医療の分野でもCT、MRI、超音波などの画像診断や病理診断はAIが診断することになると思います。

AIは一人の放射線科医や病理医が一生懸命勉強して得る知識の何万倍あるいは何百万倍ものデータを短時間で学習し、診断能力を向上させます。10年ぐらいで、画像診断、病理診断の多くは自動診断になると思われます。

医師や看護師の役割をするAIやロボット

さらに進めば、通常の医師の診察もAIに取って代わられるかもしれません。患者さんが症状をコンピューターに入力し、コンピューターが指示する検査を受け、AIが診断し、治療法もAIが決めるようになると思われます。ロボット技術の進歩は患者さんの看護、介護をロボットが担うようになり、手術もロボットがするようになるかもしれません。



医療環境を大きく変化させるインターネット

また、インターネットの発展は在宅医療を大きく変化させると思います。高齢者に対しては自宅で小型の機器が自動測定した血圧、脈拍、酸素濃度など多くの生体情報をネット経由で病院に転送し、自動解析して異常があれば医師に伝達されます。

医師はテレビ電話で診察をし、軽症であれば入院せずに自宅でそのまま治療もできるようになるでしょう。AIやロボット技術、インターネットが進歩すれば、患者一人一人にあった個別化医療が進むものと期待されます。

医療の発展に〝人の役割〟を必要とするかどうかは、あなた次第

そのころには医師は何をするようになるのか、それはまだわかりません。しばらくは医師がこれらを利用しながら、最善の医療を模索していくものと思います。

患者さんが医師と人間的な関係を求めるならば医師の役割はまだまだ続くと思います。少なくとも患者さんにとってこのような医療の発展は望ましいことではないでしょうか。